

「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 28)



ピーマン・半促成(長期)栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

ピーマンの「ちばエコ農産物」の栽培基準は、促成、半促成（短期）、半促成（長期）、抑制（長期）栽培で設けられています。半促成（長期）栽培における化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量（窒素成分量）は、表1のとおりです。



▲ 半促成（長期）栽培

表1 ピーマン・半促成（長期）栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準

(平成23年4月現在)

作 型	上 限 量		堆肥目安量(kg/10a)			
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり 的堆肥
半促成 (長期)	27(26)	23	3,900	1,500	900	5,000

注) 上限量のカッコ内は購入苗の場合

2 栽培基準達成のポイントと考え方

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。

病虫害防除では、まず、病虫害の発生状況を観察し、防除する必要がある病虫害を把握しておくことが重要です。ピーマン栽培で最も重要な病害はうどんこ病、害虫はアザミウマ類です。その他、発生頻度にはほ場間差がありますが、ホコリダニ類が発生すると生長点が被害を受けるので、特に生育初期は注意が必要です。

化学合成農薬を削減するためには、うどんこ病に対してはハーモメイト水溶剤やポリオキシシンAL乳剤等の天然由来成分の農薬、アザミウマ類に対してはスワルスキー（スワルスキーカブリダニ：コナジラミ類、チャノホコリダニを同時に防除できます）等の天敵農薬の活用が有効です。

表2 ピーマン・半促成（長期）栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	主要作業	農薬名	10a当たり使用量 (希釈倍数等)	対象病虫害	備考
	土壌消毒	D-D	15~20L	ネコブセンチュウ	発生に応じて使用
3月中旬	定植	ベストガード粒剤	1~2g/株	ミナキイロアザミウマ	
3月下旬	生育期	※ポリオキシシンAL乳剤	500~1,000倍	うどんこ病	
4月上旬		※ハーモメイト水溶剤	800~1,000倍	うどんこ病	
4月下旬	収穫期	※スワルスキー	250~500mL	アザミウマ類 コナジラミ類 チャノホコリダニ	
5月上旬		パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	うどんこ病	
5月中旬 ~		※ハーモメイト水溶剤	800~1,000倍	うどんこ病	発生に応じて使用
		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	アザミウマ類	発生に応じて使用
8月下旬					
9月上旬		ダコニール1000	1,000倍	うどんこ病	発生に応じて使用
9月中旬 ~		※カリグリーン	800~1,000倍	うどんこ病	発生に応じて使用
		※スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	アザミウマ類	発生に応じて使用
10月下旬		プレオフロアブル	1,000倍	タバコガ類	発生に応じて使用

注) ※印は、「ちばエコ農業」における化学合成農薬に含めない農薬

A ほ場準備と育苗期 ~育苗時は防虫網で殺虫剤を減らす~

●育苗ハウスは防虫網で害虫の侵入を防止する

防虫網を育苗ハウス開口部に被覆し、アザミウマ類やコナジラミ類の侵入を防ぎます。また、ホコリダニ類に有効な殺虫剤は少なく、本ぽでスワルスキーのような天敵を放飼すると殺ダニ剤は使用できないため、慎重に観察し、ホコリダニ類の被害株が発生した場合は、他の苗に被害が広がる前に処分します。

B 定植から収穫開始前 ～病害虫の発生を観察して、過剰な農薬散布を回避する～

●定植時には粒剤を施用する

定植時にベストガード粒剤等を施用することで、生育初期の害虫発生を防ぎます。収穫期前にアザミウマ類の発生が著しい場合は、スタークル顆粒水溶剤等のネオニコチノイド系の殺虫剤を散布します。

●うどんこ病防除の殺菌剤は発生前に予防的に散布する

定植直後はハウス内が乾燥しやすく、うどんこ病が発生しやすい条件にあります。収穫期前は定期的にポリオキシシンAL乳剤を散布します。ただし、ポリオキシシンAL乳剤は収穫7日前までしか使用できませんので、注意が必要です。

C 収穫期前半 ～天敵の放飼と、うどんこ病の防除～

●天敵を放飼し、アザミウマ類を防除

アザミウマ類による被害を受けた果実は、果皮の光沢がなくなり、へたも黒変して商品価値が下がります。

収穫期に入り、ハウス内気温も上昇してきた頃にスワルスキーを放飼します。放飼直後は一時的に害虫の密度が高くなるがありますが、その後、天敵の増殖によって害虫の密度は低下します。



▲アザミウマ類による被害果

●梅雨入り前の乾燥時は特にうどんこ病を防除する

5～6月の梅雨入り前の晴天時はハウス内が乾燥しやすく、うどんこ病が発生しやすい条件となります。十分なかん水を行うとともにパンチョTF顆粒水和剤等の化学合成農薬で病害の発生とまん延を防ぎます。

D 収穫期後半 ～秋口のうどんこ病防除と防虫網によるタバコガ類の防除～

●秋口の乾燥時にうどんこ病を防除する

7～8月はうどんこ病の発生が少なくなる傾向がありますが、ハウス内が乾燥しやすい9月は多発しやすく、特に5～6月に発病しているほ場では注意が必要です。

また、収穫期後半は草勢が低下しやすく、うどんこ病が発生しやすい状態になります。追肥とかん水によって草勢を強くするとともに、ダコニール1000等の化学合成農薬を予防散布します。



▲うどんこ病の発生した葉

●タバコガ類は防虫網で防除する

タバコガ類の侵入は防虫網で防ぐことができます。発生が認められた場合はプレオフロアブル等で防除します。

2 施肥と土づくり

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。堆肥による土づくりに加えて、有機質肥料の施用により、「ちばエコ農産物」の栽培基準の達成が可能です。

なお、表3の施肥例は主要農作物等施肥基準（平成21年、千葉県）の施肥量に準じていますが、各ほ場の施肥量は土壌診断に基づいて決めます。

また、登録名称内に「有機」などの文字が記載された肥料であっても、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

表3 ピーマン・半促成(長期)栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふんもみがら堆肥				2,000			
基肥	味好1号	6	8	4	100	6(0)	8	4
	有機アグレット666特号	6	6	6	300	18(0)	18	18
	苦土石灰				70			
追肥	ロングショウカル	12(12)	0	0	50	6(6)	0	0
	OK-F-3	14(14)	8	25	100	14(14)	8	25
総施用量						44(20)	34	47

注) () 内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬・肥料使用例は、平成21年度現地実証試験時点のものです。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

なお、栽培基準は平成23年4月改訂後のものを記載しています。

- 著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
- 発行年月日 平成23年11月

■内容についての問い合わせ先
千葉県農林総合研究センター
TEL. 043(291)9987



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

CHIBAちば